

はじめに (学生の方も目を通してもらえれば嬉しいです)

終戦から70年以上が経ち、当時のことを「実体験」として語ることでできる方は少なくなってきました。ご本人から直接話を聞くことが出来るのは貴重になってきています。そのような中でこの本は、太平洋戦争中に国を護る為に少年飛行兵として過ごされた方の、実際の体験談の聞き取りを基にした漫画です。当時16歳、17歳だった青年がどのようにして戦争に巻き込まれていったか、どのような体験をされたか等、全てが真実のお話です。

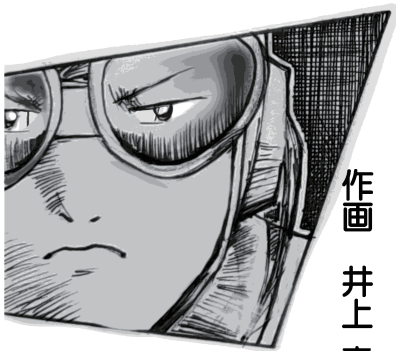
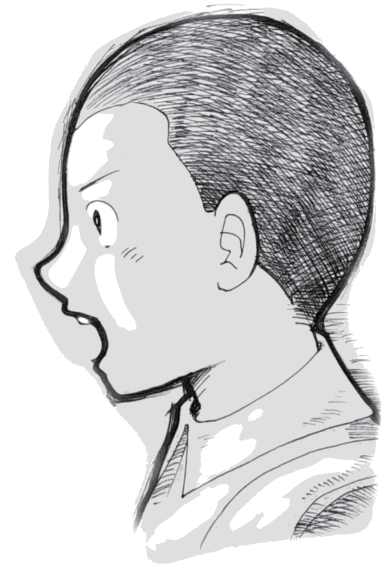
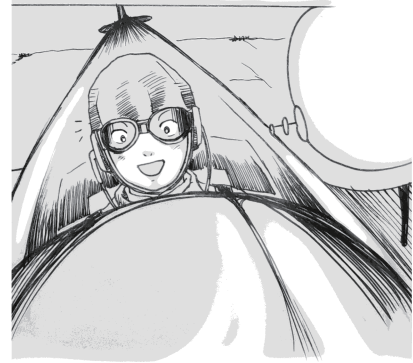
戦争当時、戦われた方の中には、この本のモデルである末吉氏のように現代でいう中学、高校、大学生の年齢の方がたくさんいます。きっと平和な世の中なら皆さんと同じように色々勉強し、友人と遊び、スポーツをし、恋愛も……、そんな現代では当たり前に出て来る事を犠牲にして国を護る為に訓練や戦われた方がいたことを、私たちは忘れてはならないでしょう。空襲や原爆のことに比べて、あまり授業では学習することのない、国を護るために戦われた方のことについて、私たちは歴史の真実として知っておかなければなりません。今の日本があるのは、そういう方々を含めた多くの方の犠牲や戦後の努力によるものの影響が大きいということを心に留めておく必要があると思います。

この本を読んだ後に何か少しでも皆さんの心に残ればいいなと思っています。そして皆さんの中でこの本が『太平洋戦争』に触れるきっかけになることを願っています。

北九州 戦争を次世代に伝えていく会

樺島 由彬

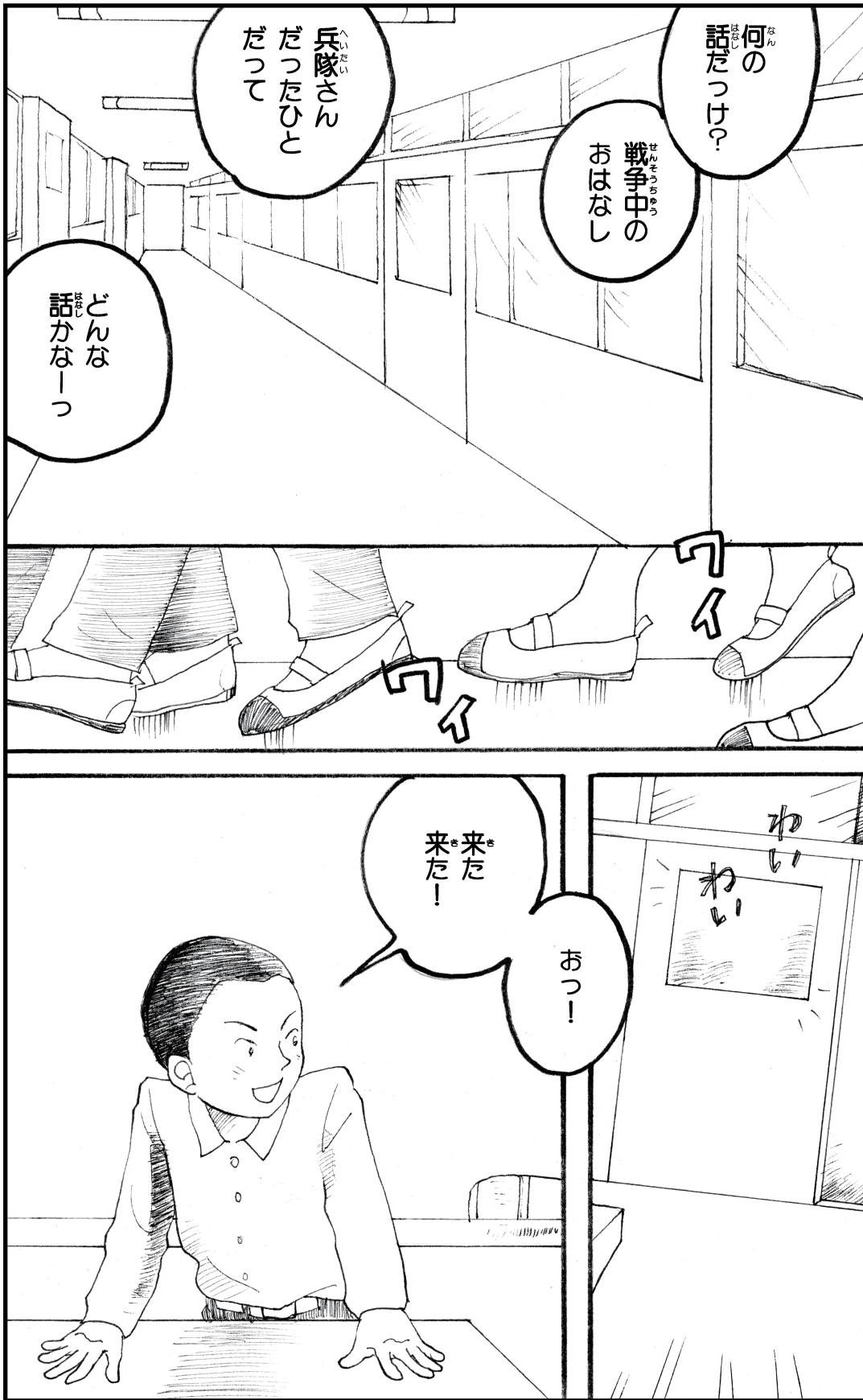


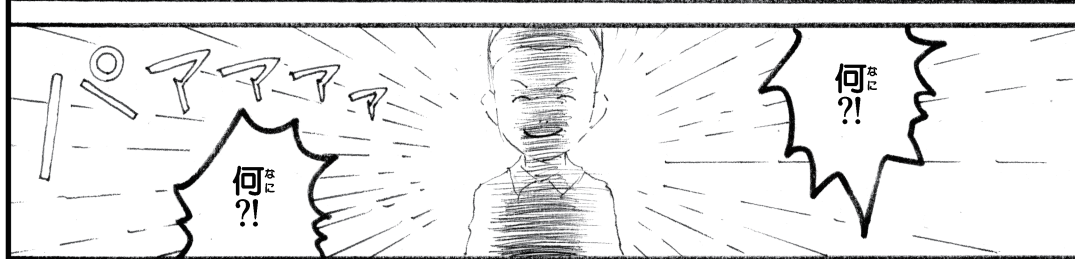
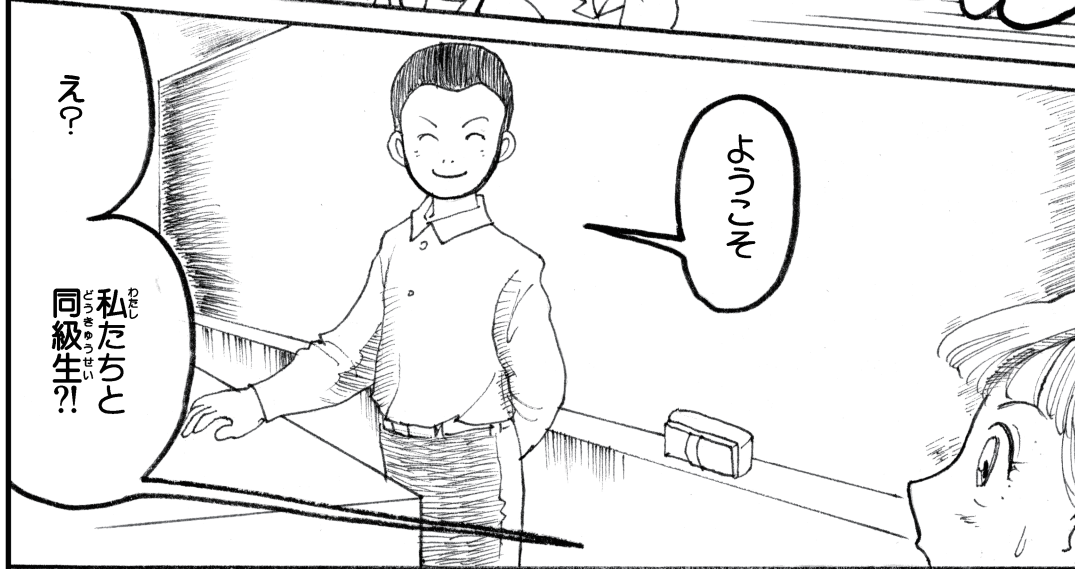
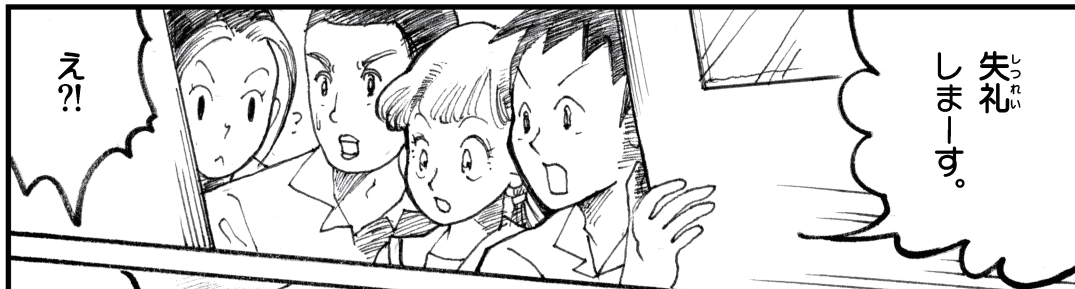


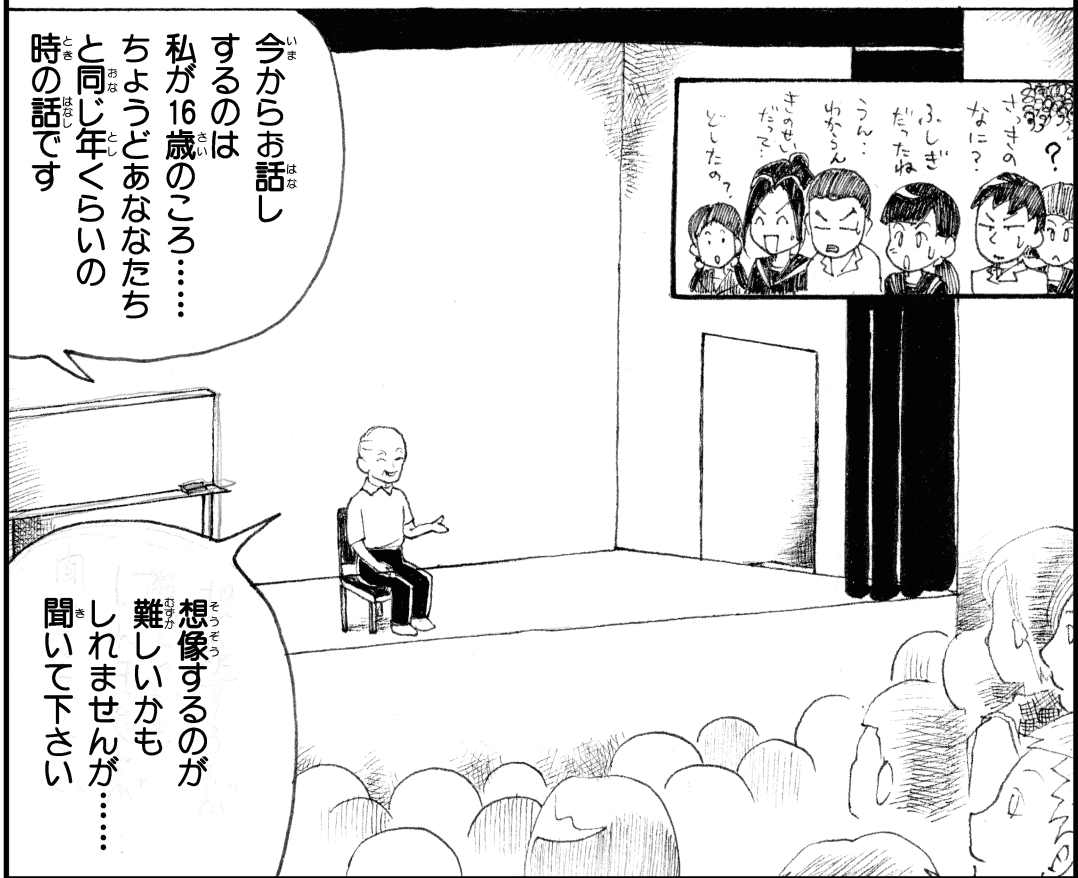
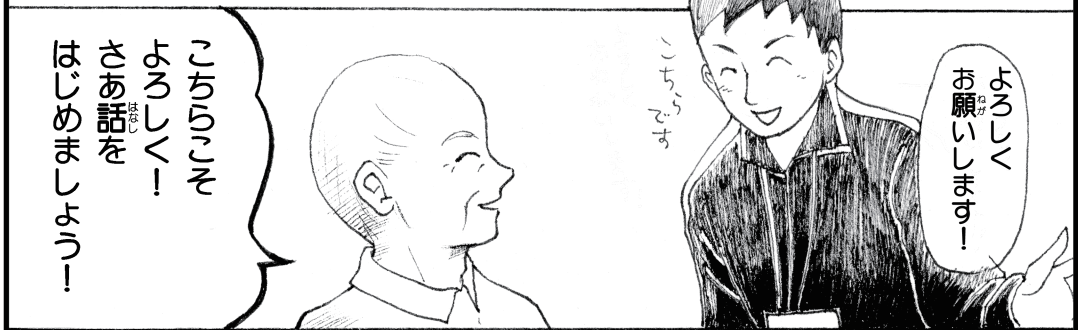
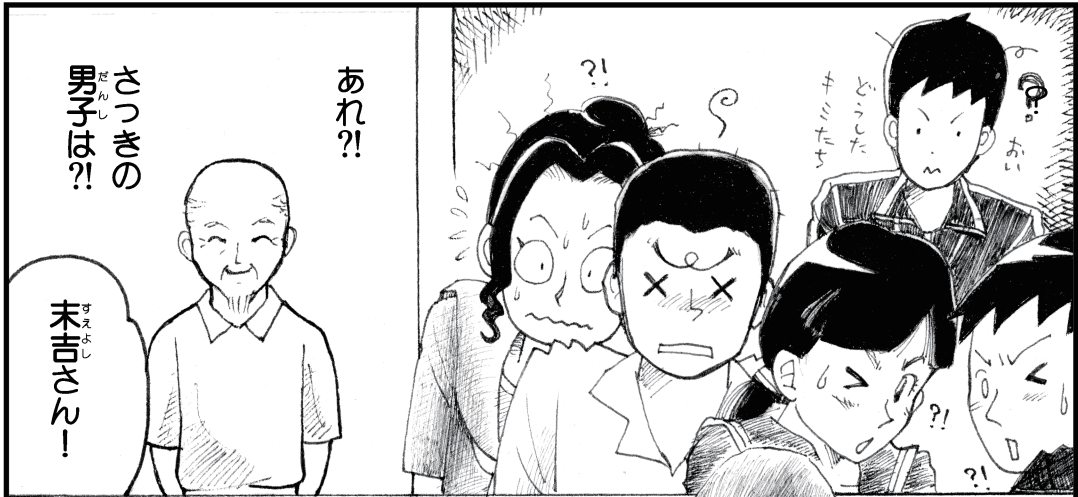
# はっちゃんの飛行兵奮闘記 「末吉初男さんの戦争体験談」

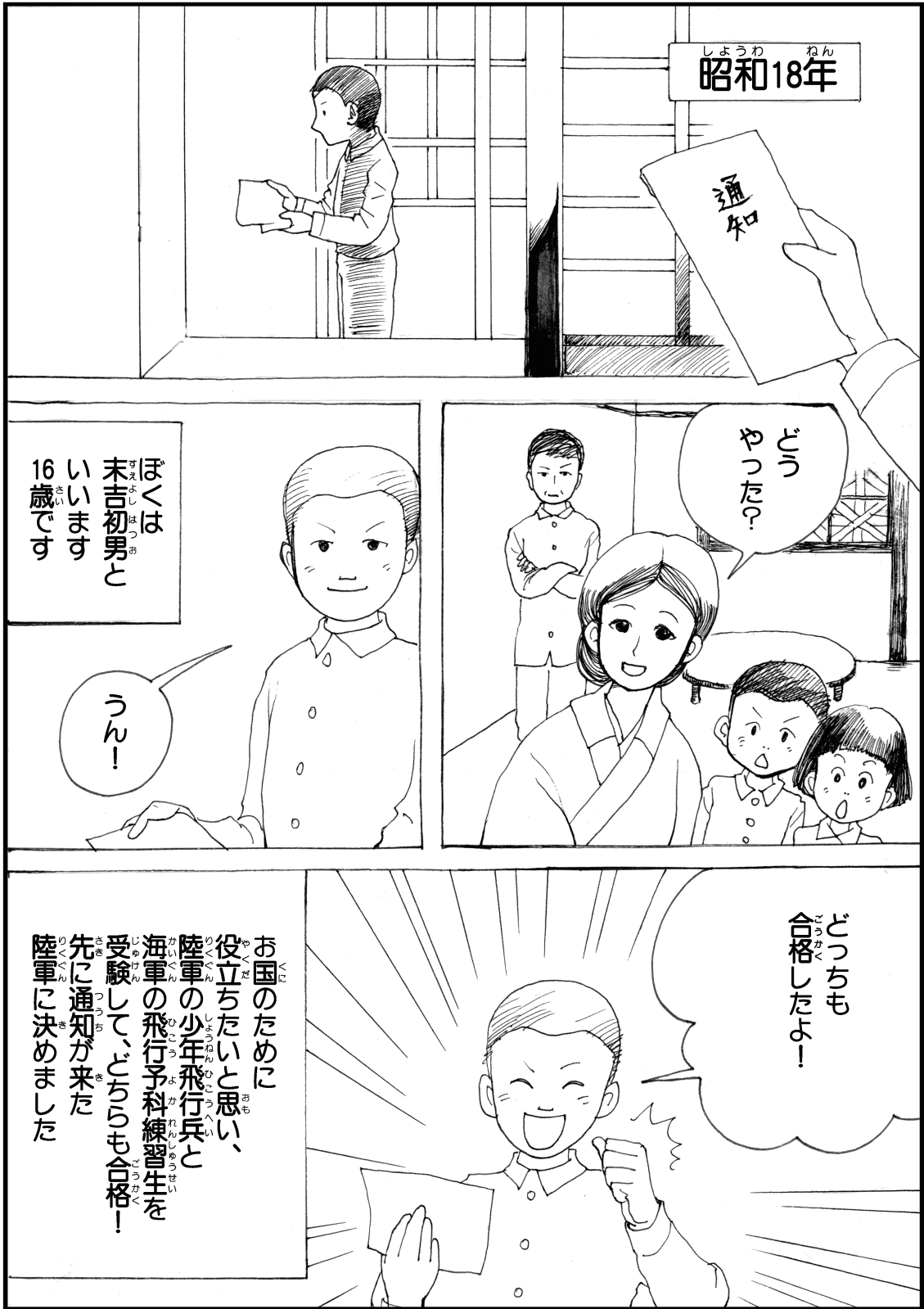
原案 北九州戦争を次世代に伝えていく会

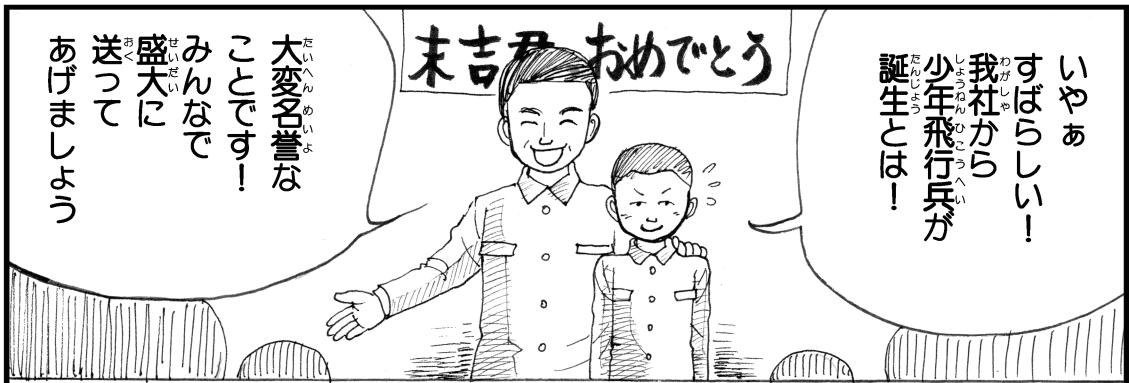
作画 井上恵











末吉君 おめでとう

いやあ  
すばらしい！  
我が社から  
少年飛行兵が  
誕生とは！

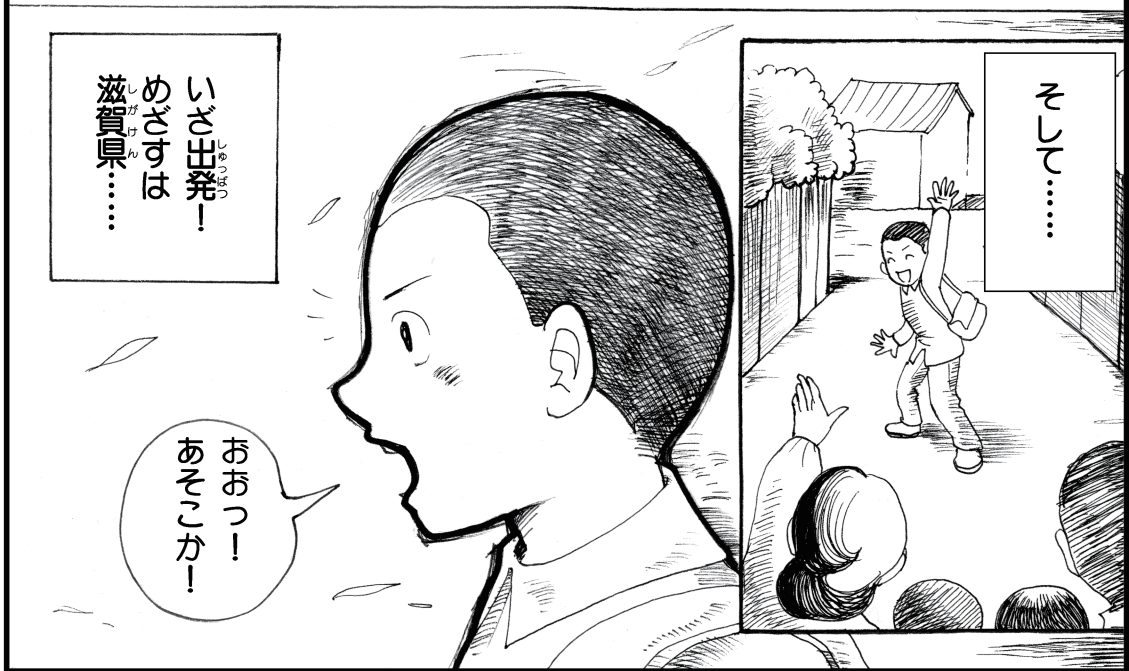
大変名譽な  
ことです！  
みんな  
盛大に  
送って  
あげましょう



勤めている  
会社では  
大変喜んで  
もらえ

新聞社の  
取材まで  
来る程に

毎日新聞の  
北九州版に  
写真を載せて  
もらいました



そっつ……

いざ出発！  
めざすは  
滋賀県……

おおっ！  
あそこか！

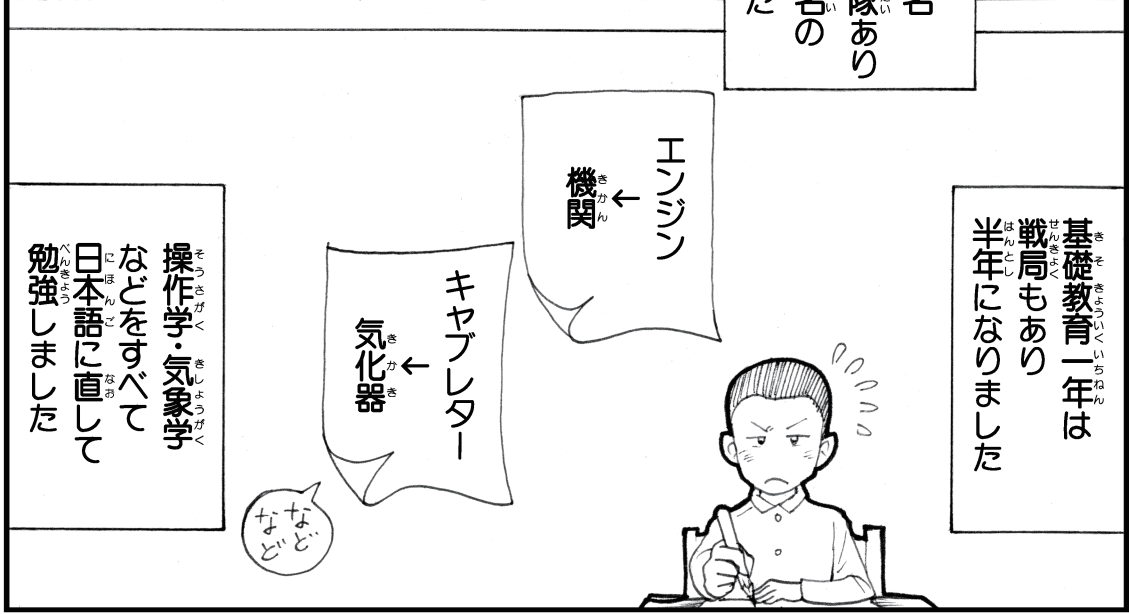
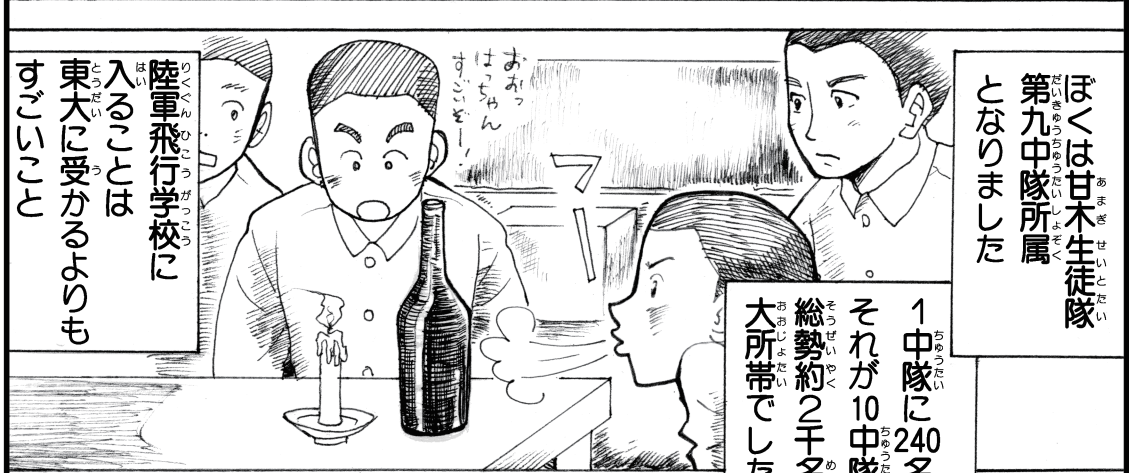
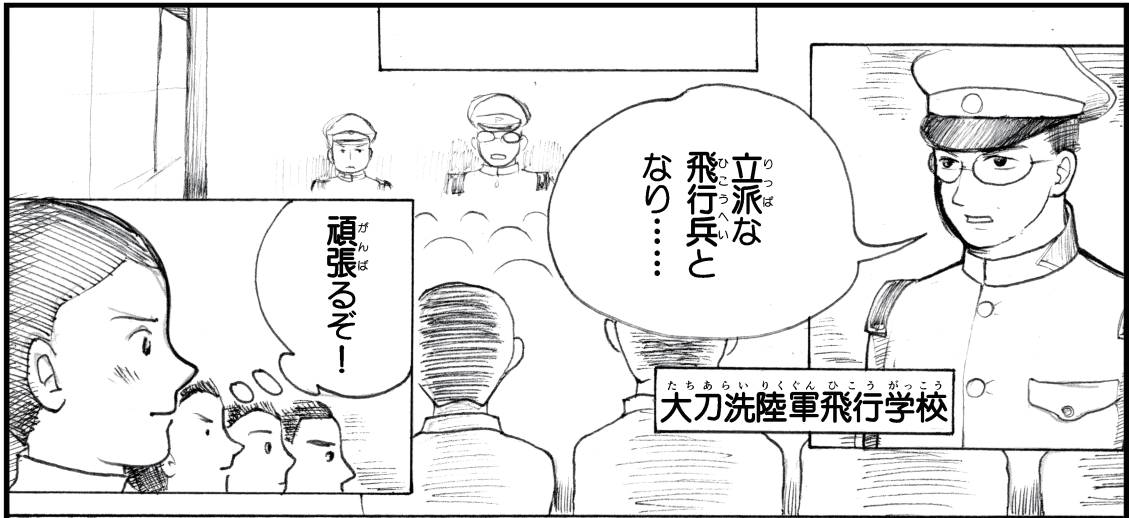


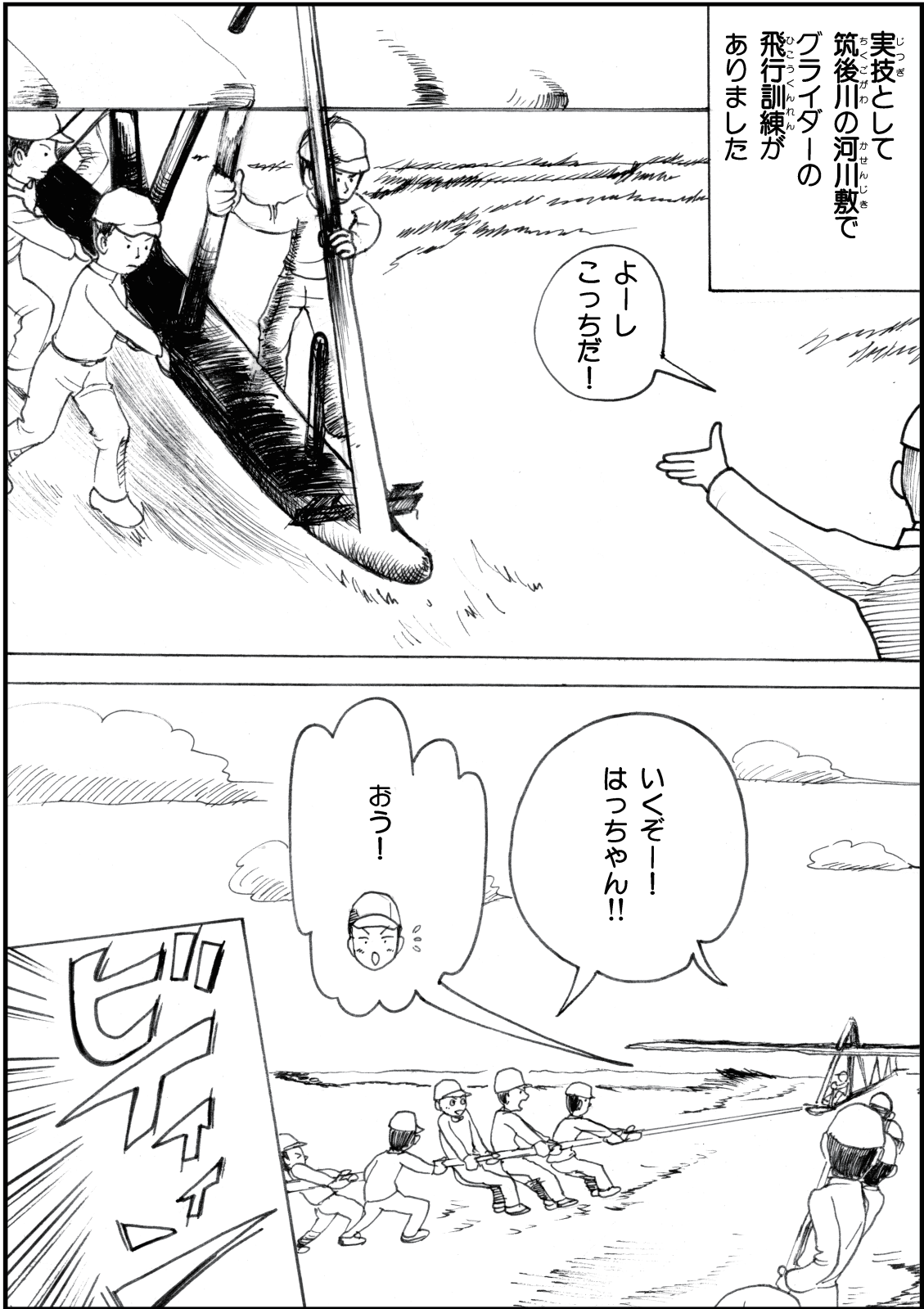


みんなの予想どおり  
私たちは大刀洗陸軍飛行学校へ  
行きました。

ここは、そのころ東洋一と言われた  
大きな陸軍の飛行学校でした。







実技として  
筑後川の河川敷で  
グライダーの  
飛行訓練が  
ありました

よーし  
こっちだ!

いんぞー!  
はっちゃん!!

あー!

ピッ



5〜10mほどの  
高さから  
サツと飛び上がり  
しばらく滑空

あそびのような  
訓練でしたが  
とても楽しく  
気もちよいもの  
でした

よう  
とびよる

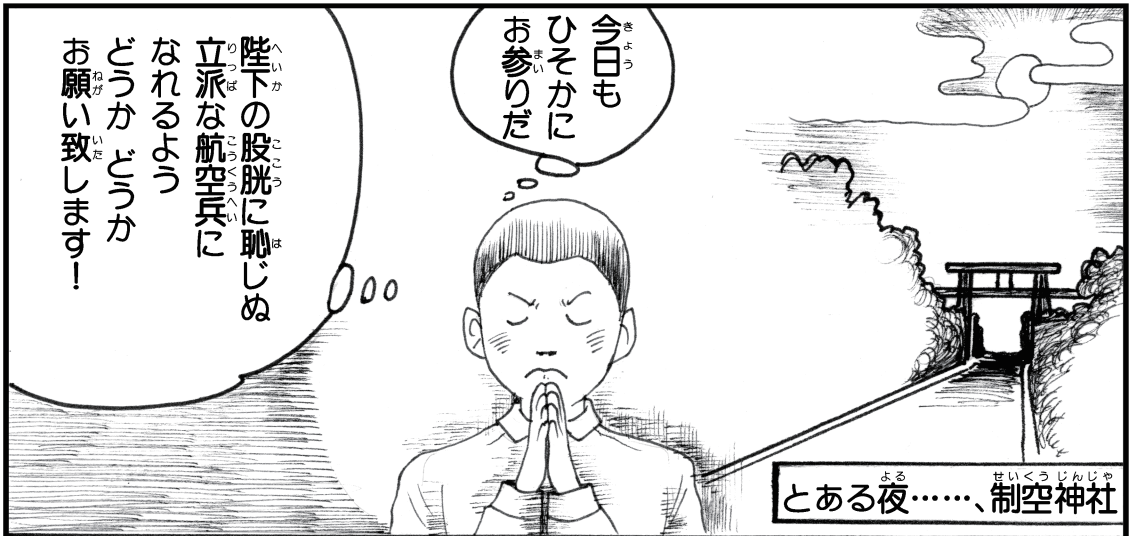
あー  
すげー

あつ  
おばさん  
たちだ!!

河川敷での訓練では  
ちかくの国防婦人会や  
愛国婦人会の  
おばさんたちが

おはぎや蒸した  
おいもなどを  
振る舞ってくれたのも  
楽しい思い出です  
おばさん達には今でも  
感謝しています

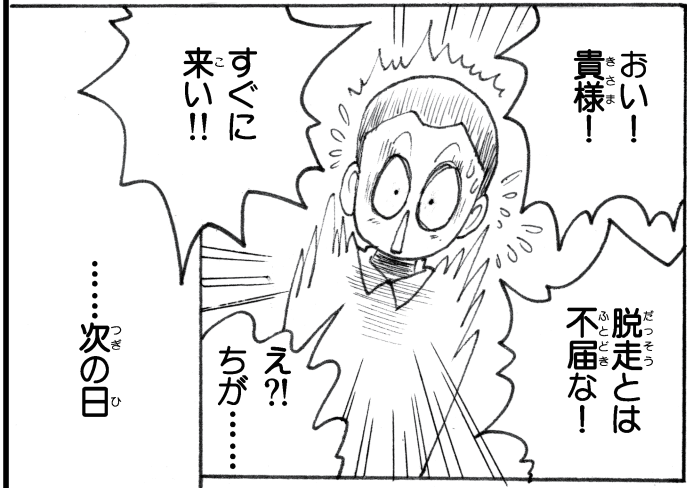
ありがとう



今日も  
ひそかに  
お参りだ

陛下の股肱に聴しぬ  
立派な航空兵に  
なれるよう  
どうかどうか  
お願い致します！

とある夜……、制空神社



すべに  
来い!!

あい!  
貴様!

逃走とは  
不届な!

……次の日

え?!  
ちが……



来るぞ

明日も

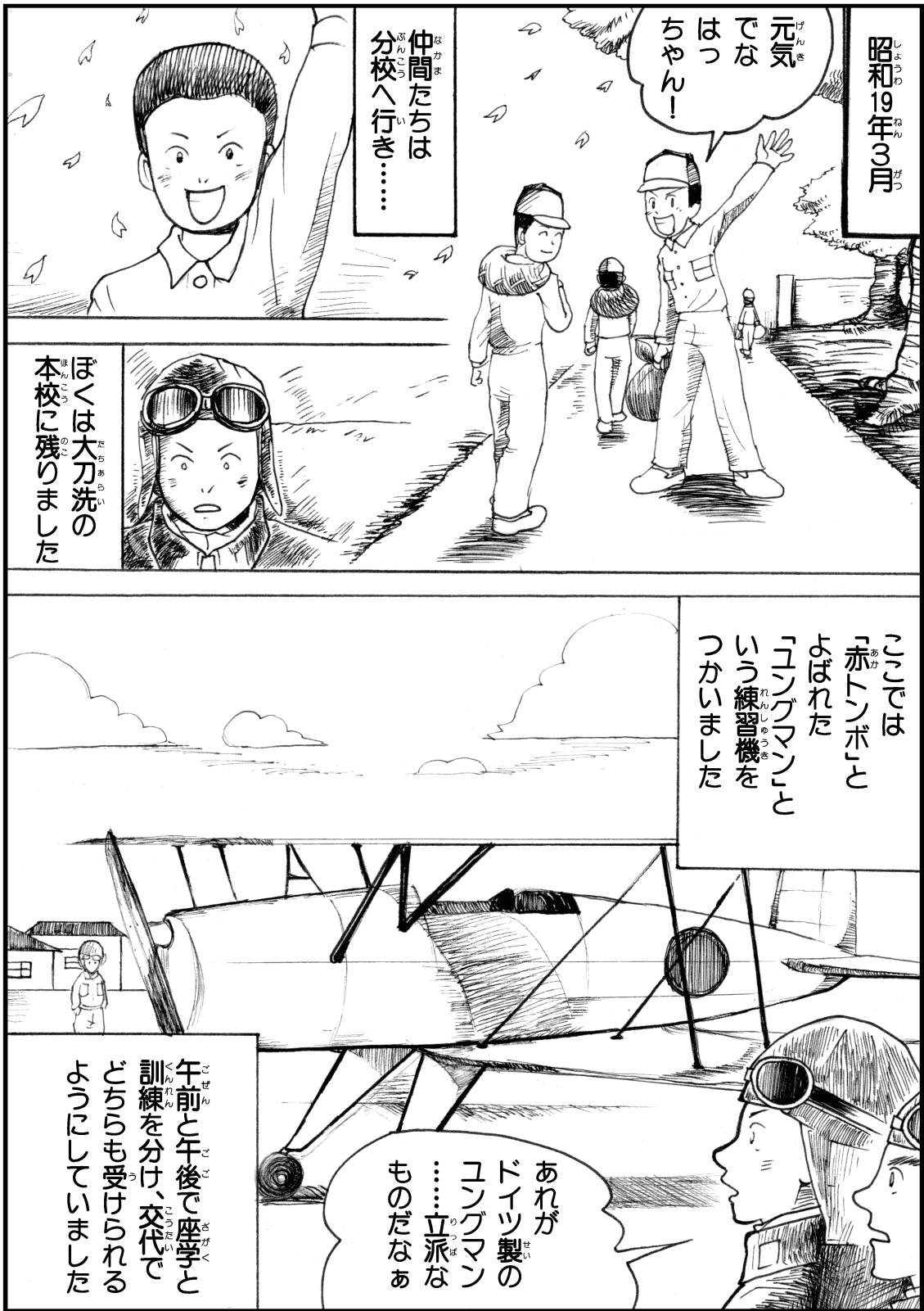


諸君  
感心な  
生徒が  
いるので  
紹介しよう  
未吉だ

皆が  
寝静まった後  
夜な夜な  
制空神社に  
お参りし  
覚悟を新たに  
して……

逃走兵と間違われ  
中隊長にも知れて  
大目玉をくらうのかと  
思ったのにびっくり!

朝になって  
みんなの前で  
ほめて頂けました  
生徒隊での  
もうひとつの  
思い出です



昭和19年3月

元気なでな はっちゃん!

仲間たちは分校へ行き...

ぼくは大刀洗の本校に残りました

ここでは「赤トンボ」と「ユングマン」という練習機をつかいました

あれがドイツ製のユングマン...立派なものだなあ

午前と午後で座学と訓練を分け、交代でどちらも受けられるようにしていました







飛行場周辺を  
1周10分くらい  
飛んで  
次の生徒に交代

最初は生徒が  
うしろの席  
教官が前の席  
でした

はー  
すくに  
なれる!

これがやがて  
生徒が前に  
入れ替わり

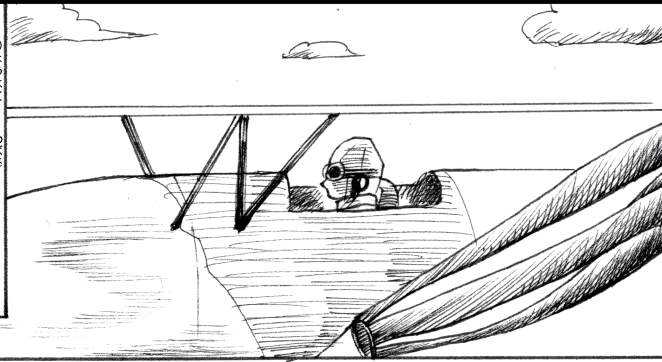
よし!  
次から末吉は  
単独飛行だ!

やった!  
はい!  
ありがとう  
ございます!!

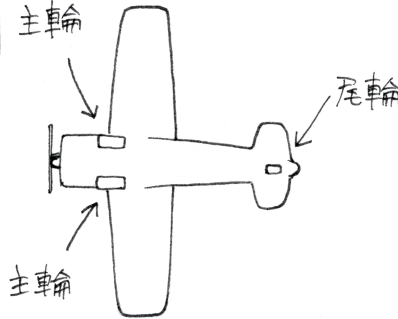
教官が何もせず  
生徒だけで  
安全に飛行  
できるよつに  
ならう...

単独飛行の日……

両翼の翼に赤いふきながしをつけてました車の初心者マークのようなものです



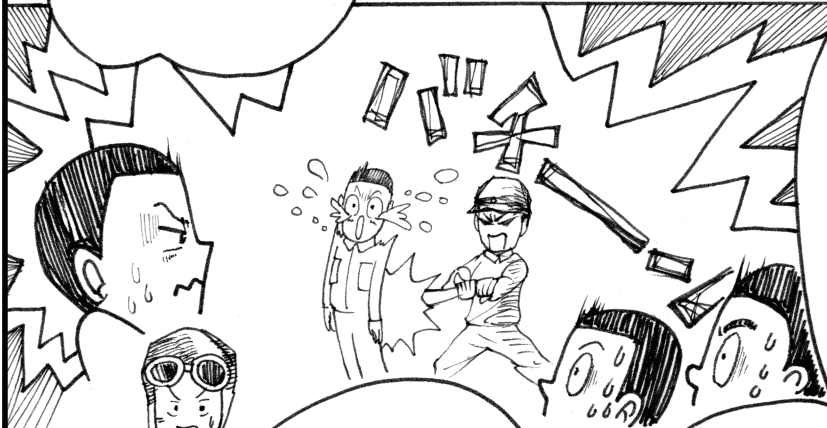
きびしく指導され気をつかったのが離着陸時の操作です



前二つの主輪と後ろの尾輪

この3点が同時にサツと着陸する3点着陸が理想なんだ!

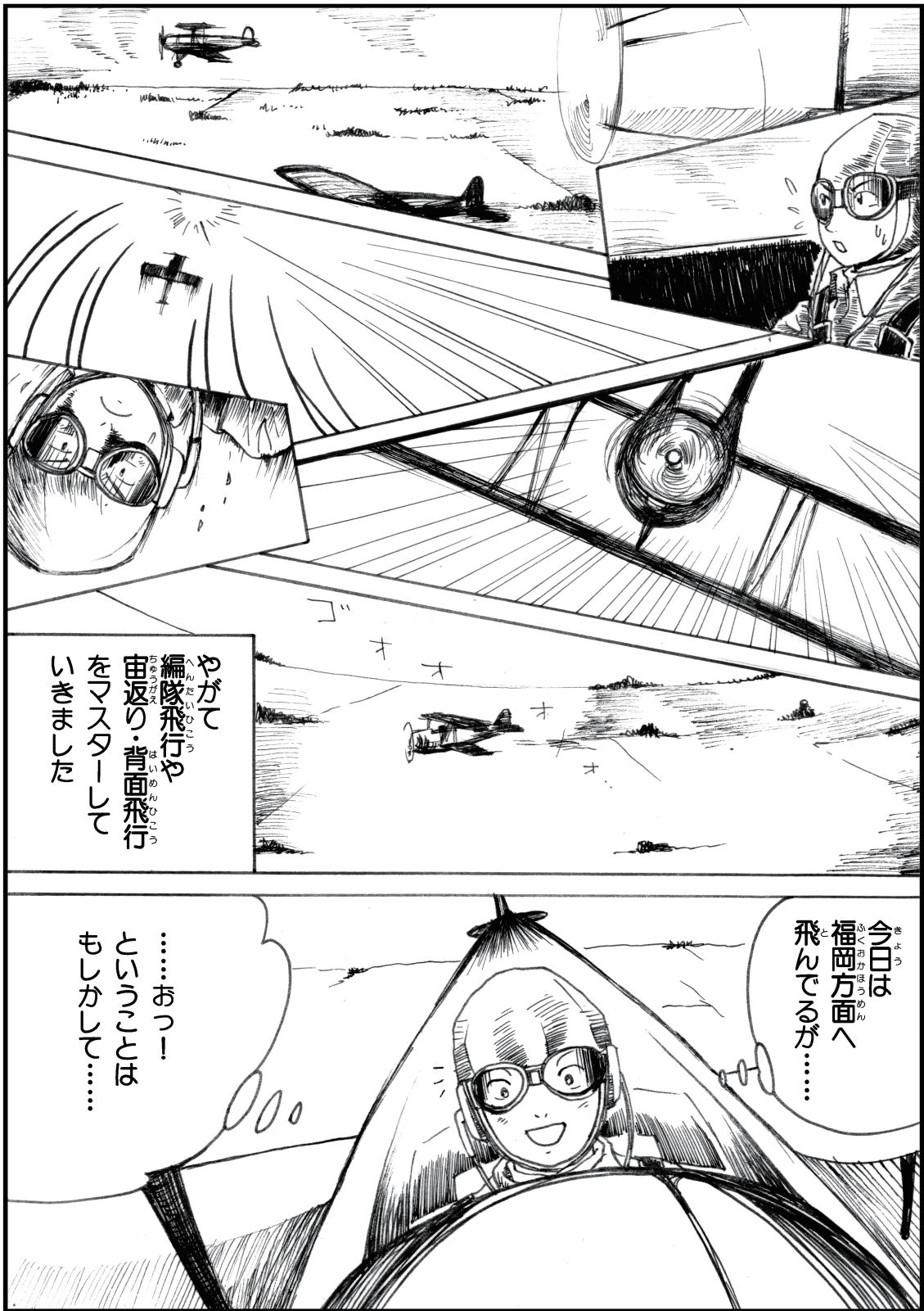
これは飛行機が失速ギリギリで着地させるタイミングが必要なんだ……短い距離で安全に着地できるからね



でもタイミングを失うと速すぎるとオーバーランに速度が足りないとならバウンドしてしまう着地してしまう

とくにバウンドはせつたいにダメ!! バウンドした回数分「操縦上達棒」で尻をたたかれる!! それがいやなら……

とにかく腕とみがかくしかない!!

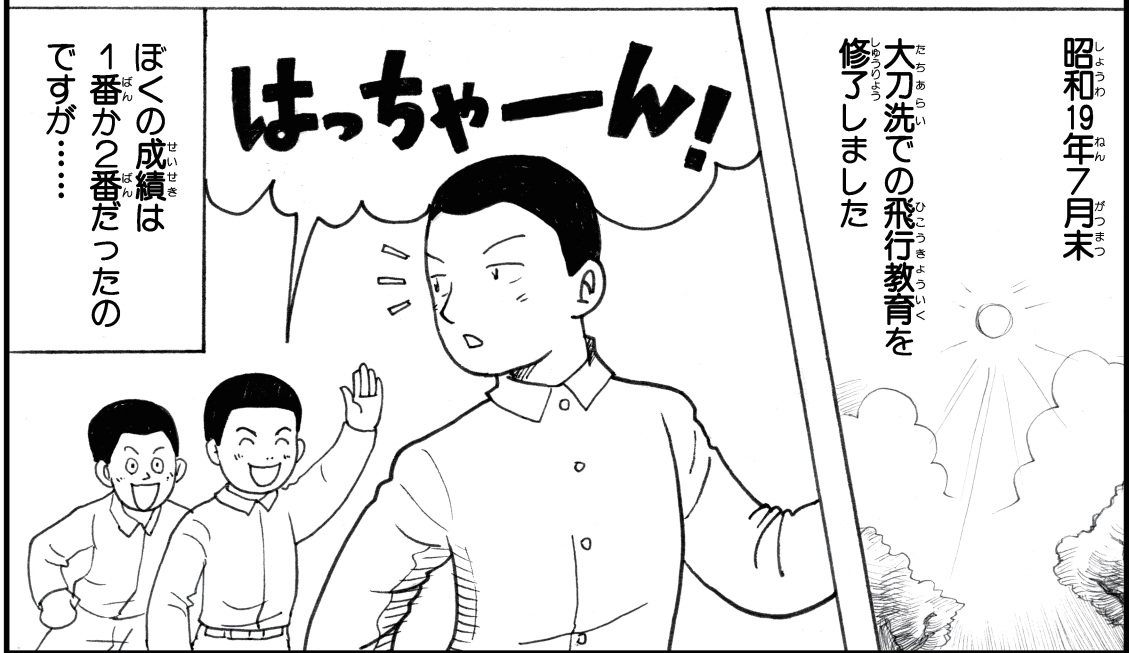
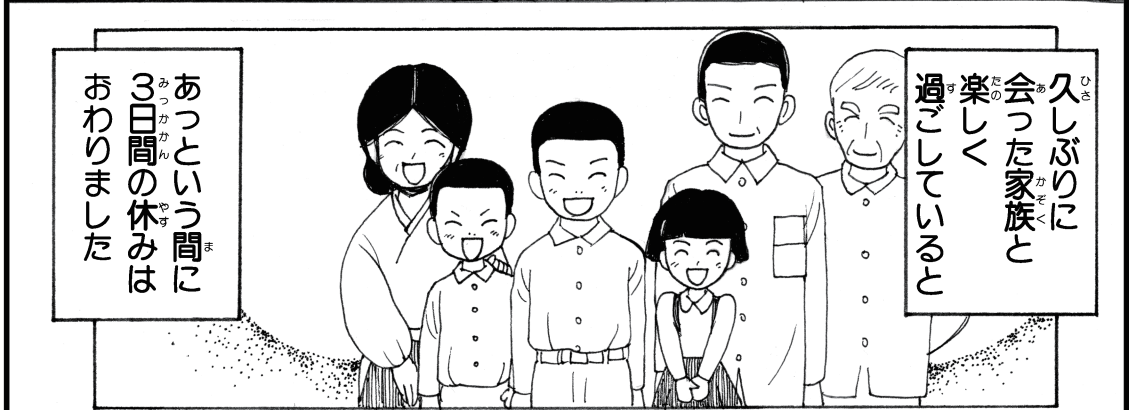


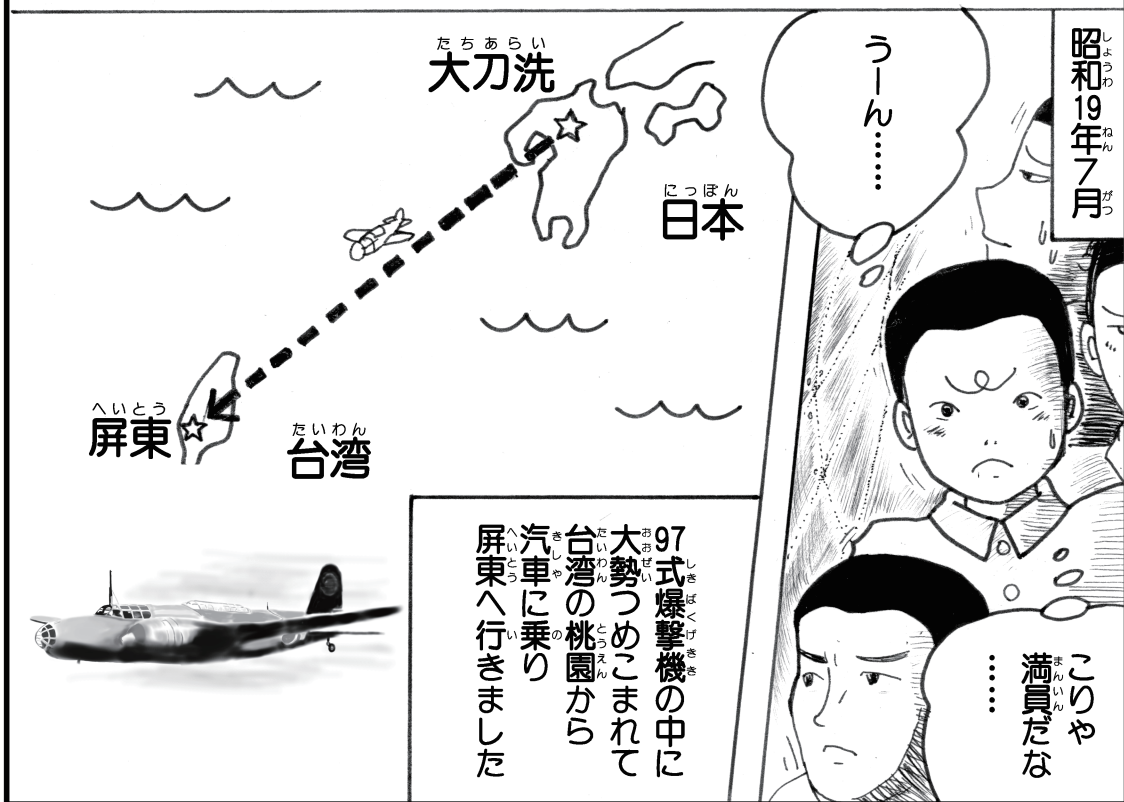
やがて  
編隊飛行や  
宙返り・背面飛行  
をマスターして  
いきました

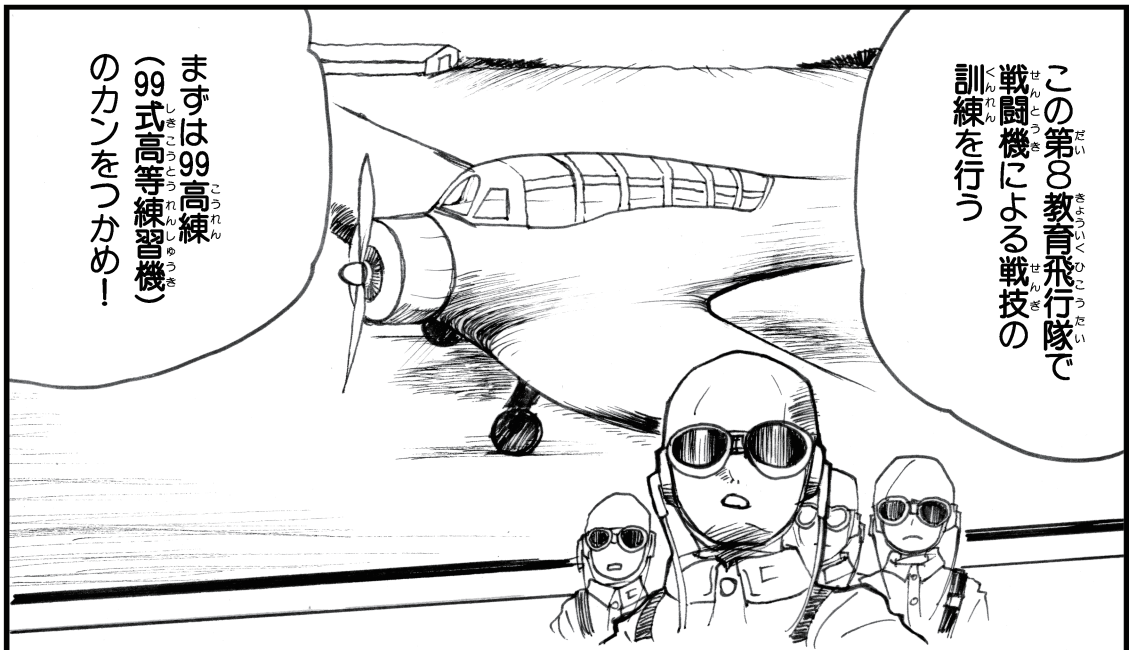
今日は  
福岡方面へ  
飛んでるが……

……おっ！  
というとは  
もしかして……



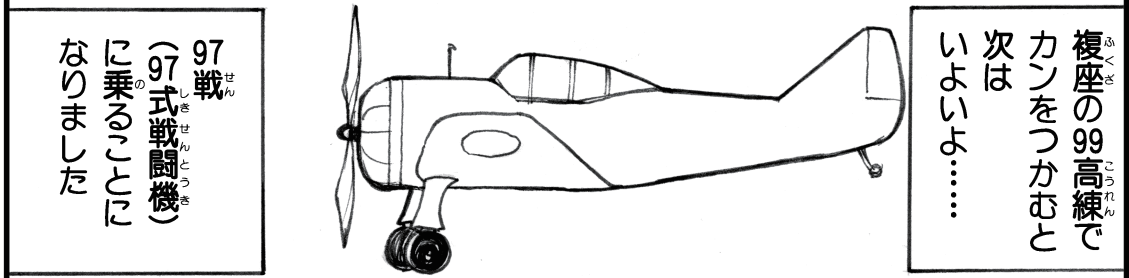






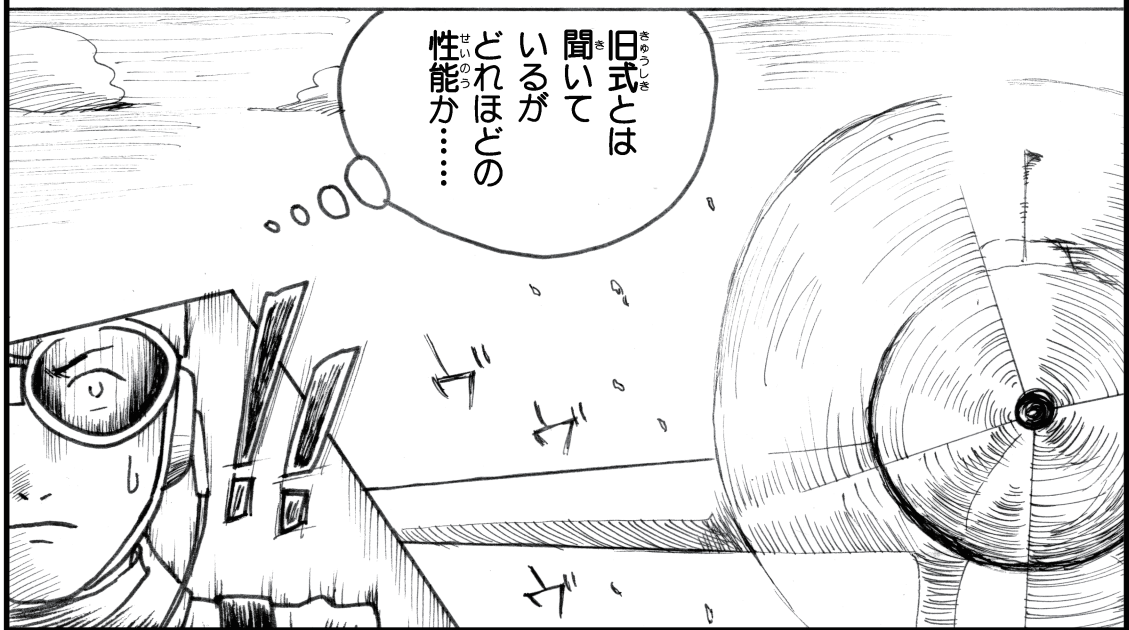
この第8教育飛行隊で  
戦闘機による戦技の  
訓練を行う

まずは99高練  
(99式高等練習機)  
のカンをつかめ!



複座の99高練で  
カンをつかむと  
次はいよいよ……

97戦  
(97式戦闘機)  
に乗ることに  
なりました



旧式とは  
聞いて  
いるが  
どれほどの  
性能か……



「97戦」は「隼」という  
戦闘機が出る前の  
陸軍主力機でした  
格闘戦に強く  
全金属製の機体で

すーいー！

97戦……  
どごが旧式だ！

脚は出しっぱなし  
速度も遅いので  
旧式と言われていました。  
しかし  
ぼくたちにとっては  
速かった……  
さすが実戦部隊と  
思ったものです

射撃や特殊飛行は  
やってきたが  
これは赤トンボより  
ケタ違いに速い！  
さすが実戦部隊……

ところが……

貴様ら！  
ここで空中戦の  
戦技を取得して……

はいっ！

1機で  
10機20機の  
敵機をおとしても  
やられては  
分が悪い！



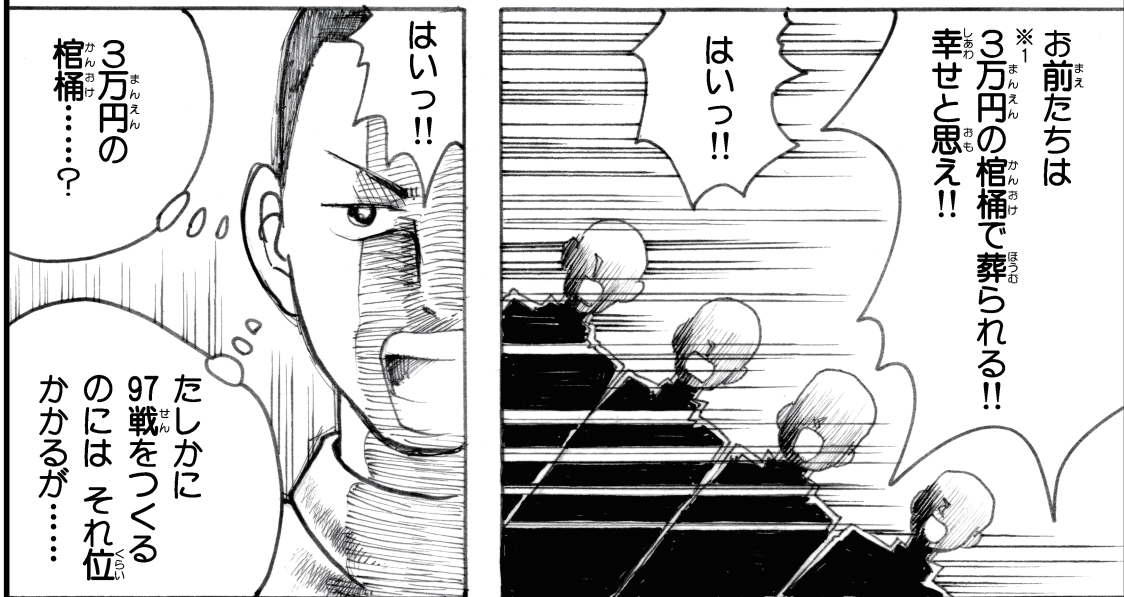


どうせ  
やられるのならば  
いっその事……

はい!!

空母一隻を  
道連れにした  
方が  
マシとは  
思わんか!!

教育内容が  
だんだん  
変わって  
きたのです



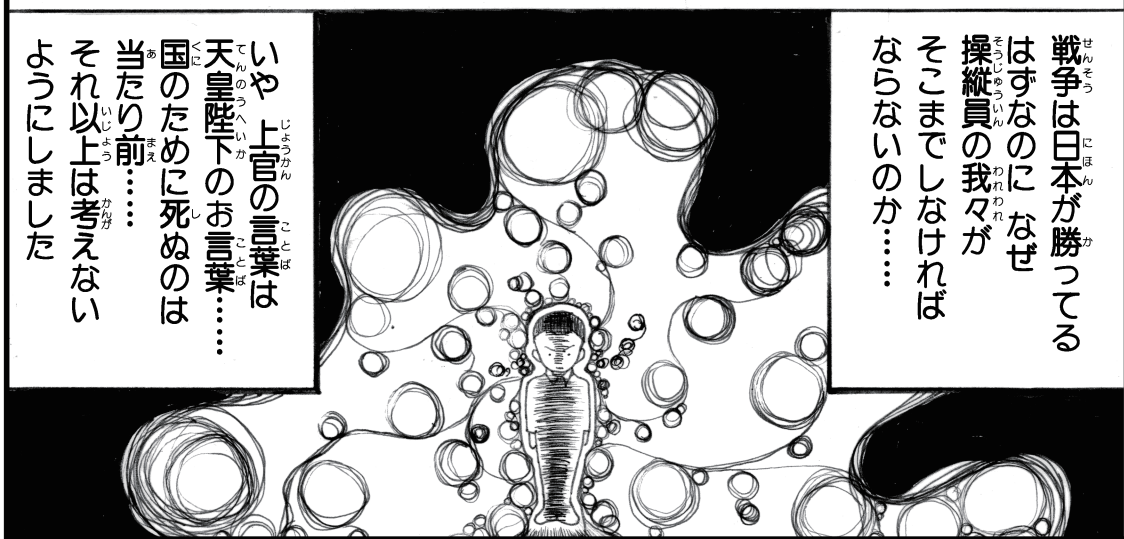
お前たちは  
※1 3万円の棺桶で葬られる!!  
幸せと思え!!

はいっ!!

はいっ!!

3万円の  
棺桶……っ?

たしかに  
97戦をつくる  
のにはそれ位  
かかるが……

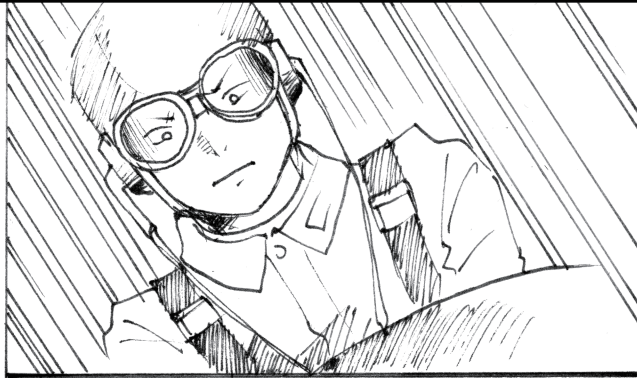


戦争は日本が勝ってる  
はずなのになぜ  
操縦員の我々が  
そこまですなければ  
ならないのか……

いや 上司の言葉は  
天皇陛下のお言葉……  
国のために死ぬのは  
当たり前……  
それ以上は考えない  
ようにしました

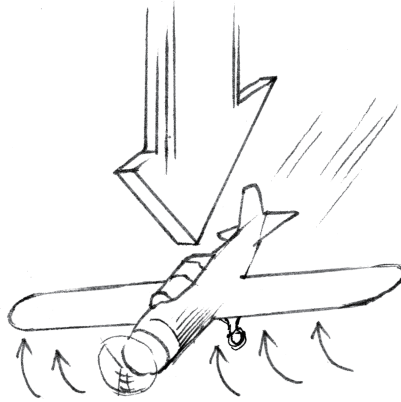
※1 当時の会社員の月給は数百円程度でした。非常に高価という意味で使われています。

訓練は地面にある  
丁字布板目がけての  
急降下を行いました



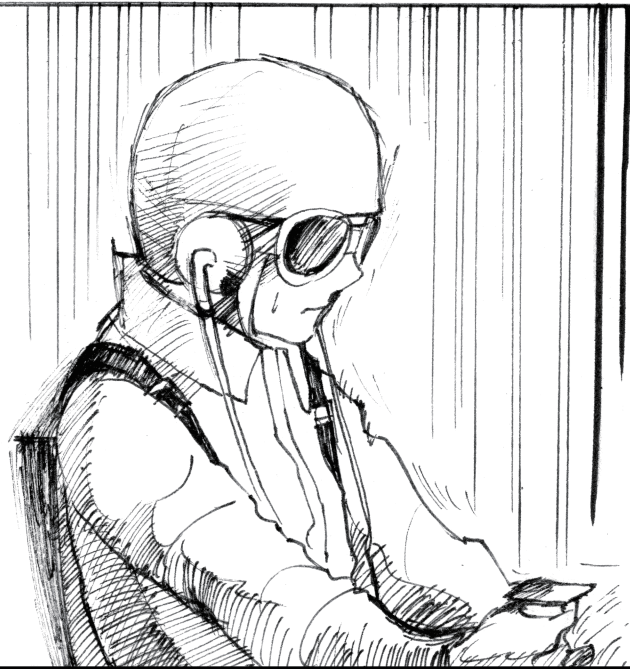
高度1000メートルから降下し  
地上200〜300メートル  
くらいで機体を引きおこす

引き上げのときは  
機体にもすごいG(重力)が  
かかります



また97戦のように機体より  
翼長が長く翼面積も広い  
機体で急降下をするとき  
加速するに従い翼の浮力が  
増して強く浮き上がろうと  
してしまいます

そのため操縦桿で浮力を押さえて  
飛行機をまっすぐに降下させなければ  
なりません



その上あまりに早く引き上げにかかると  
「真剣味が足らん〜!」と怒られます  
しかし引き上げなければ地面に激突……  
大変な訓練でした



それから

空中戦の訓練は  
かなりの  
座学の内容も  
わかりました

艦影にみる  
フネの識別や  
空母・戦艦の  
弱点についての  
教育でした

空母の弱点は  
昇降機(エレベーター)  
そこに当たれば  
使えなくなる!

戦艦・巡洋艦の  
弱点は  
機関部!

じゃから  
艦橋後部は  
当たってもよい!  
真つ逆さまに煙突に  
押し入っても良しだ!

20年3月まで  
そんな教育を  
受け……

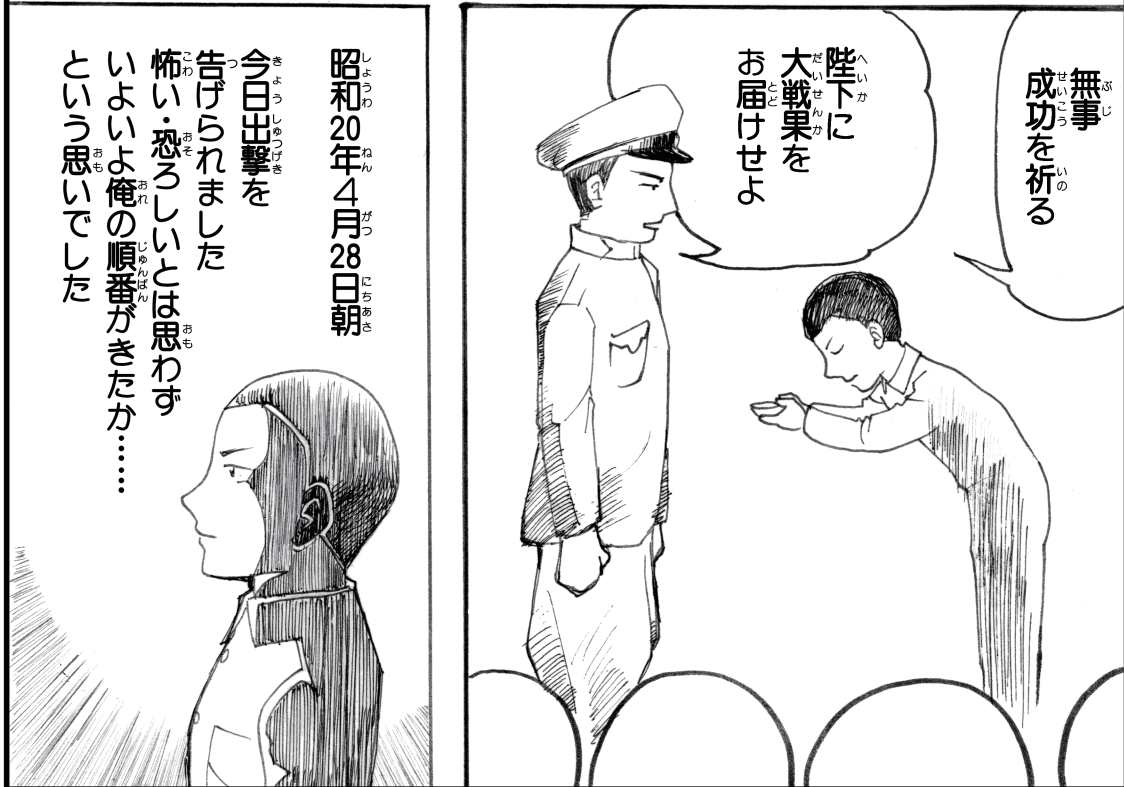
体当たり専門の  
飛行隊に  
入るのか……  
がんばるぞ!!

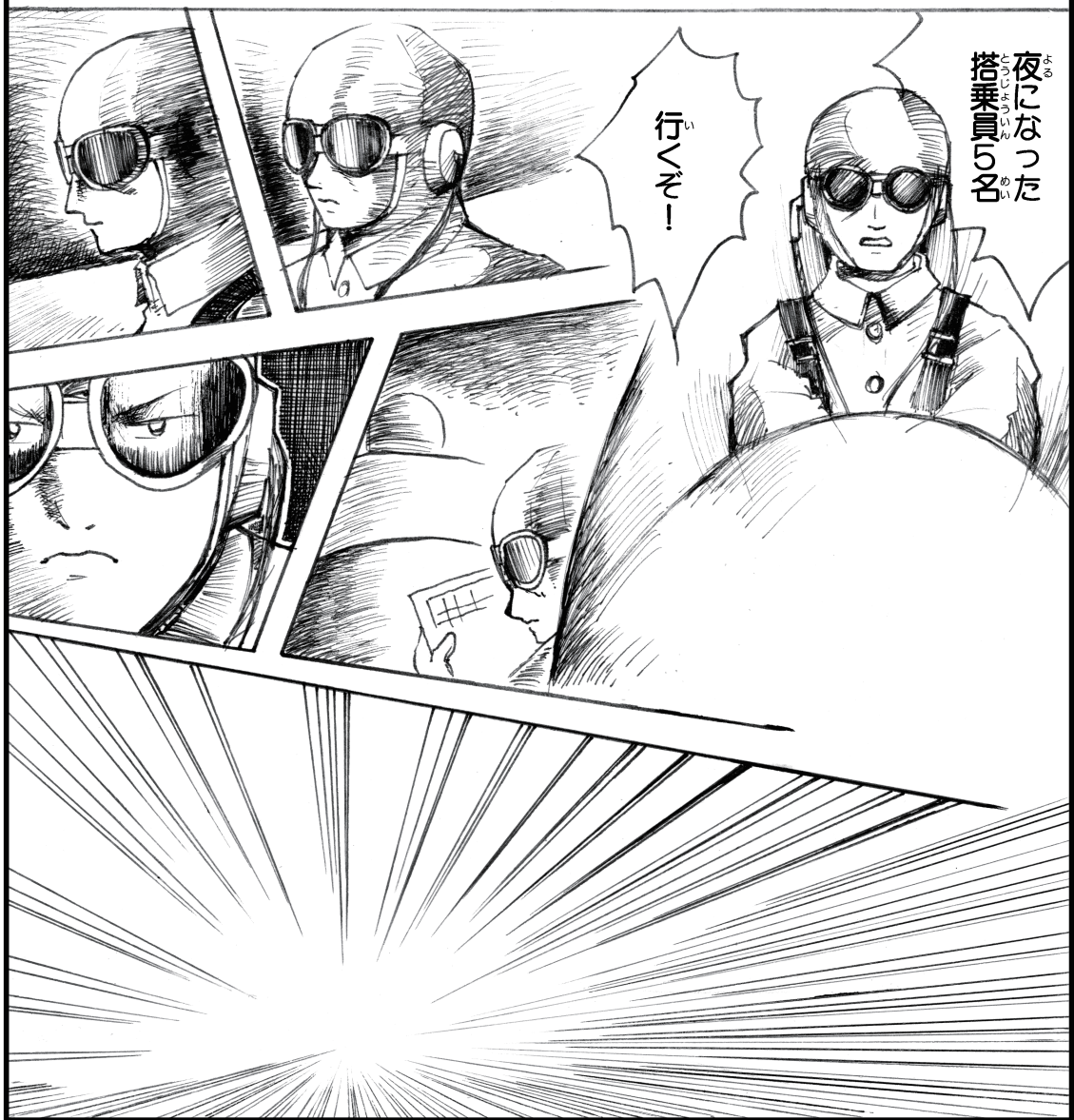
しかし  
驚いたのは  
その待遇です

昭和20年3月末  
台湾中部・北港の  
誠121飛行隊に  
配属されました

ようこそ  
さあさあ  
お席へ!

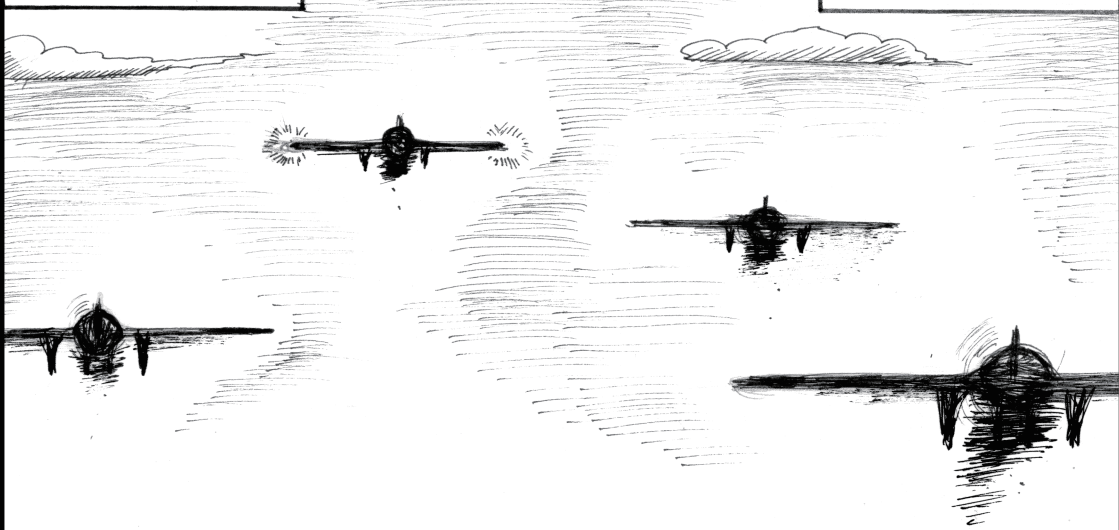
好きなだけ  
食べる!





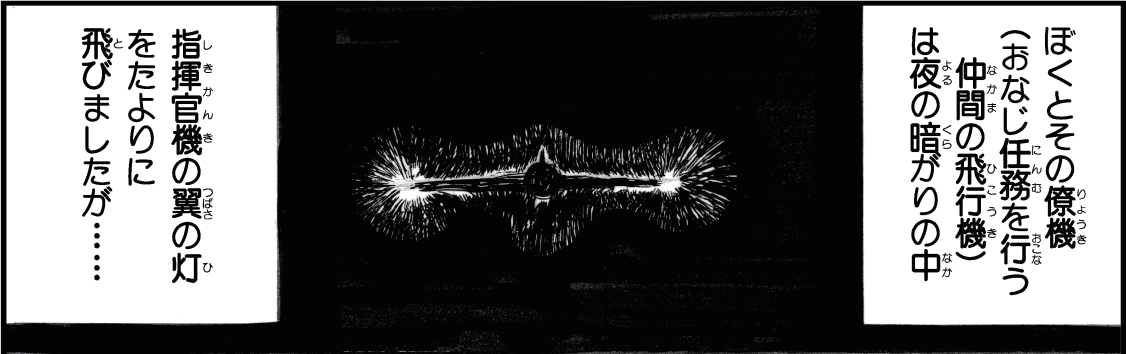
特攻隊のパイロット  
4名と  
夜の海の上を正しく  
飛べるよう進路を指示  
する航法専門員1名  
の5名

やがて敵艦隊に  
全員で突撃するため  
昭和20年4月28日夕方  
台湾・樹林口から  
飛び立ちました



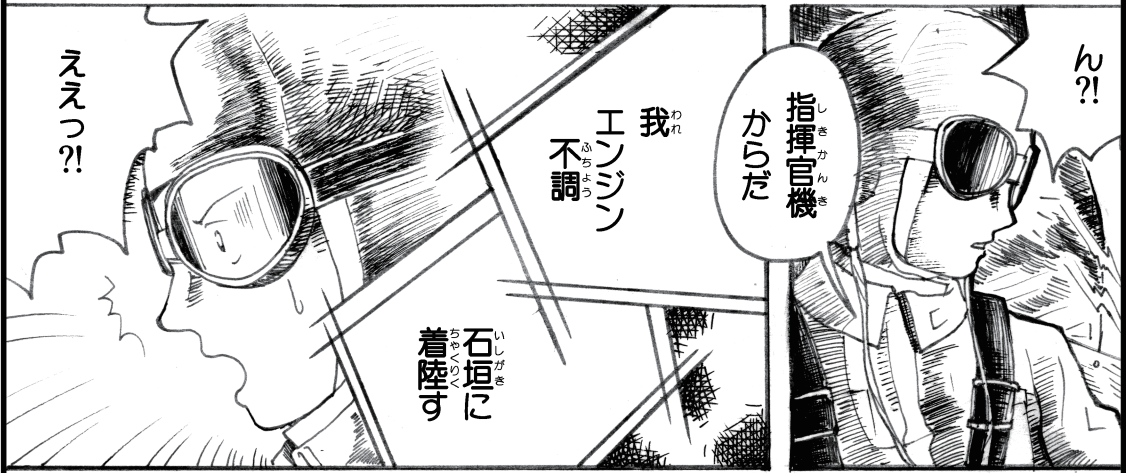
なぜ夕方かという  
台湾が空も米軍に  
占領されていた  
昼間は米軍の飛行機が  
飛んでいるからでした

ぼくは高岐村中尉の  
隊長機を左ななめ前  
に見るようにして  
飛んでいました



ほくこの僚機  
(おなじし任務を行う  
中間の飛行機)  
は夜の暗がりの中

指揮官機の翼の灯  
をたよりに  
飛びましたが……



ん?!

指揮官機  
からだ

我  
エンジン  
不調

石垣に  
着陸す

ええっ?!



石垣島の  
白保飛行場か

しかしこんなに  
真つ暗な中  
高度もつかめない

着陸と  
言われても……

そのころの白保飛行場は使わない  
油を入れたドラム缶が四すみに置いて  
あるだけの電気もないところでした  
無事に降りられるか……







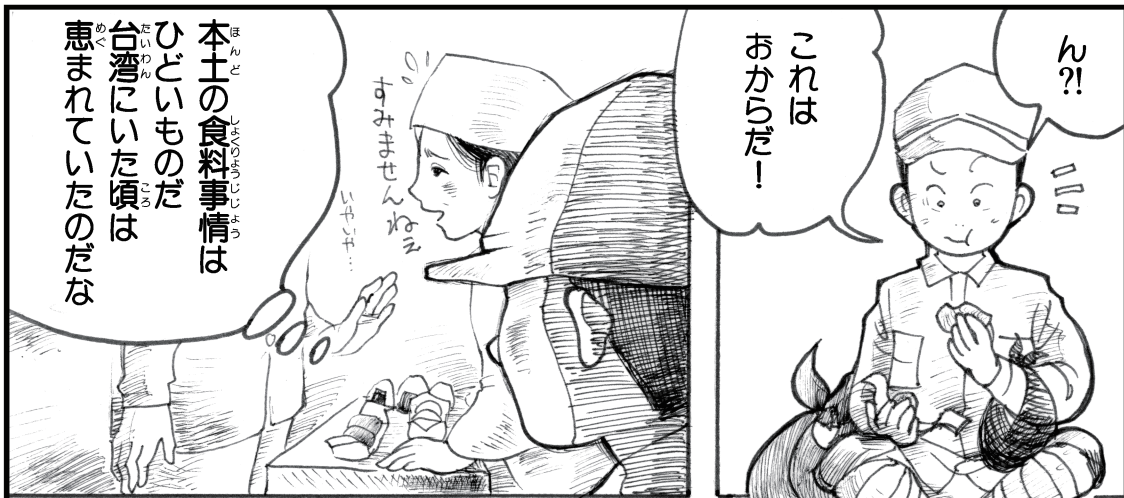




※2 思いどおりではなく残念なこと。







本土の食料事情は  
ひどいものだ  
台湾にいた頃は  
恵まれていたのだな

すみませんねえ  
いやいや...

これは  
おからだ!

ん?!

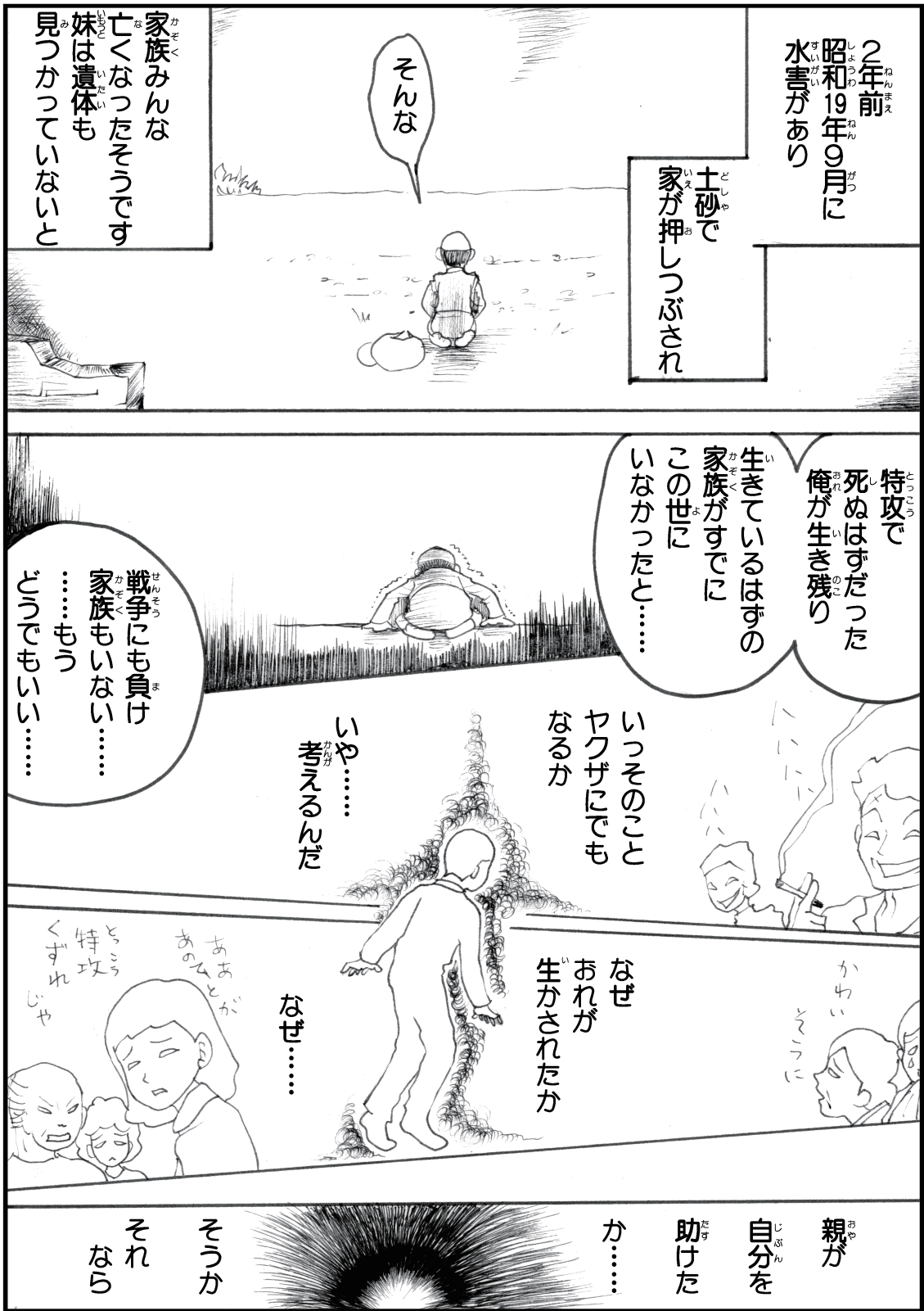


こりゃ  
これから  
大変だ……  
日本を立て直す  
ために家族で  
がんばらな……

ドドッ



そしてなつかしい  
宇島に着いたとき





なほひみ

がんぼんじつ

それから  
心を入れかえて  
ミシンの会社で  
セールスをやった

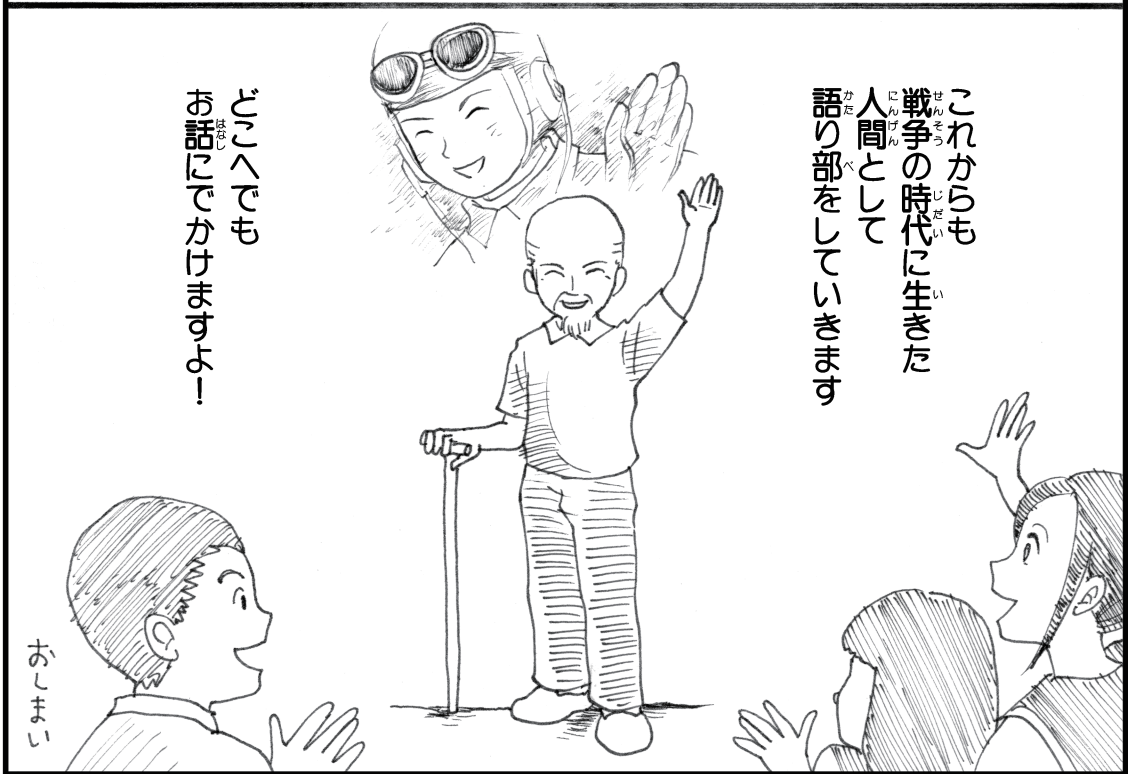
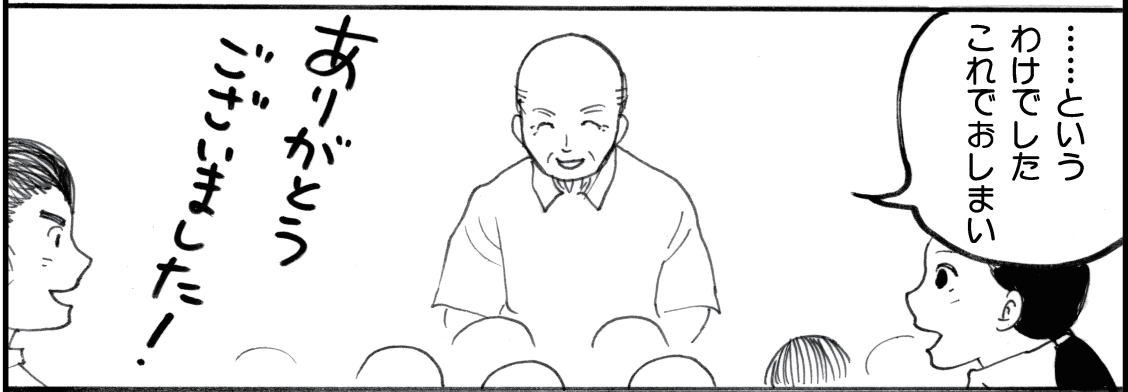
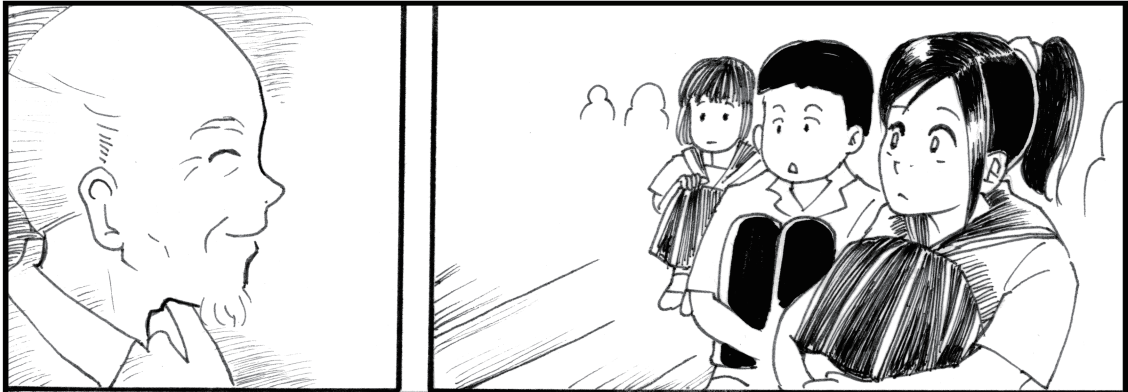
昭和28年頃から  
自転車  
を  
売る仕事も  
はじめました

自転車の  
パンク修理なども  
やるようになって  
結婚して……  
子どももできて……

昭和43年には  
八屋駅前一番になる  
自転車屋  
「豊前サイクルセンター」  
をひらきました

子どもたちは  
それぞれ立派になり  
今は孫が4人います





## 元帝国陸軍伍長 末吉 初男 氏

末吉さんは90歳を超えられた今でも旅行に行かれたりグラウンドゴルフをされたりして元気に過ごされています。そんな末吉さんですが戦後70年以上、戦時中に体験されたことを、亡くなられた戦友への後ろめたさ等から誰にも話さずに生きてこられたそうです。(戦時中、日本の為に命をかけ修羅場を潜り抜けてきた方が、終戦後に自身の体験を誰にも話すことが出来なかったのは、私たちの想像以上の辛さだったと思います。)

しかしながら、現在ではご本人の『語り部として請われればどこへでも出かけて体験を語ります。』との言葉通り、戦争体験の講演等を精力的にされております。



### 末吉さんから一言



特攻を命じられた時は特に恐ろしくはなかったですが、不時着後台湾の基地に戻った時の、上官からの「無事生還を遺憾に思う。」と批判された時のことは今でも忘れることはありません。

戦争は二度としてはいけません。こんな体験をするのは私たちの世代だけにして欲しいと思います。そして若い世代の中には、政治家や指導者になる方もいると思います。だからこそ、ひとりでも多くの人に真実を知って欲しいと思います。

## おわりに

この度は「はっちゃんの飛行兵奮闘記」を手にとつて頂きありがとうございました。

私がこの本を作ろうとしたきっかけは、『戦争を一般人として過ごされた方の空襲体験や戦時中の暮らしの体験談も大切なものである。それと同様に、兵士として戦争を経験された方の体験談も重要なものであるはず。それなのに子どもや学生が、兵士としての戦争体験談に触れる機会がほとんどなくていいのだろうか。』という、学生時代に感じていた疑問でした。一般人の方、兵士の方両方の側面から触れることで戦争というものを、より詳しく理解出来るようになるのではないかと思っています。漫画という子どもから大人までが親しみやすいものを通して、この本がその機会の一つになれば幸いです。

『一般人として』、『兵士として』を問わず、戦争を経験された方々の体験が歴史の中に埋もれていってしまうことを避け、後世に伝えていく義務が、今の日本を生きる私達にはあると思っています。微力ではありますが、これから一人でも多くの方の戦争で体験したことをカタチとして残していく活動をしていきたいと思っています。

最後に、この活動に快く賛同してくださった末吉様、作者の井上様、その他色々ご協力いただいた方々には深く感謝申し上げます

そして、一人でも多くの方にこの本が、この活動が届くことを願ひまして、挨拶とさせていただきます。

北九州 戦争を次世代に伝えていく会

樺島 由彬

# はっちゃんの飛行兵奮闘記 「末吉初男さんの戦争体験談」

発行 令和2年3月31日（初版）  
令和2年7月26日（第2版）

原案 北九州 戦争を次世代に伝えていく会

作画 井上 恵

発行人 樺島 由彬

発行所 北九州 戦争を次世代に伝えていく会

Facebook Messenger

<https://m.me/jisedaini>

☎ 080-6423-8570

編集 井上 望

印刷 丸正インキ有限公司

※ご意見、ご感想などございましたら、下記までご連絡ください。



北九州 戦争を次世代に伝えていく会（Facebook）  
← <https://www.facebook.com/jisedaini>

「アトリエ Mg」井上 恵（Twitter）  
<https://twitter.com/Mg37745980>

→

